



建築物の長寿命化と文化資産化を目指す（声明）

～ 公益社団法人化にあたって ～

公益社団法人 日本建築家協会（JIA）
関東甲信越支部 支部長 上浪 寛
同 保存問題委員会 委員長 安達文宏



人々の生活の場であるまちと建築を
長きに渡って美しく育てることが大切です

時代の変化に責任を持つ
街並みと建築を実現し維持するために
市民・行政・建築主・専門家が一体となり
それぞれの立場で協力することが必要です

日本建築家協会会員はこれからも
建築物の長寿命化、地球環境の保全に取り組み
良質な社会資産形成・継承のため
自らの責務と職能を通じて
社会のために全力で協力することを
宣言いたします

2013年6月15日 <建築家の日>

【 短命建築物の問うもの 】

東京都内の良く知られた建築物が、比較的に新しいまま解体されてしまうというニュースを目にすることが、ここ数年増えてきました。今後もそれが続くことが懸念されます。

各種メディアで話題となった完成後 30 年に満たない「旧赤坂プリンスホテル新館」の解体もほぼ完了し、また、長寿命を目指して設計された「旧日本長期信用銀行本店ビル」も資産価値の低下等により築 20 年を待たずに建て替えられると報道されるなど、当初想定された寿命のはるか前に消えてゆく建築物の例は見渡すと枚挙に暇ありません。建築の熟成を顕彰する「JIA 25 年賞」を受賞した「旧三和銀行東京本店」さえも、その一つとなりました。

諸外国に比べて我が国の建築物の建て替え年数は一般的にたいへん短く、採算性や機能更新、維持再生の技術的負担などを理由に、ごく通常の選択肢として解体されてしまいます。その責任の一端が私たち都市や建築に関わる専門家にある場合もあります。時代の変化に責任を持つ普遍的な資産価値と、長期維持管理への適応性とを有することが長寿命の条件であることを、短命に終わる建築物は、私たちに突きつけています。

【 地球環境の保全を 】

持続可能な社会の実現のためには、限りある地球資源とエネルギーに依存しつつこれを大量消費するフロー型社会から、蓄積された資本や資源の利活用に基づくストック型社会への転換が欠かせません。近年、このことが人類の共通認識となっており、生活の隅々にその意識が浸透しつつあります。しかしながら、こと我が国においては、依然として建築物や建築行為にまつわる環境負荷が国全体の 4 割前後に達しているなど、いまだに建築や都市をめぐる意識の転換が反映されず、全体像としてはスクラップ&ビルドが繰り返されており、社会全体によるこれまで以上の改善努力が必要です。

【 良質な社会資産の形成を 】

都市建築物は、私たちの経済的繁栄を支える基盤となっていますが、一方で公共的な都市環境・景観を形づくる社会資産でもあります。世界を見渡しますと、多くの都市で、各時代の特徴を伝える建築物、あるいは歴史の証言者となる建築物を保存・活用することで、街並みとその景観に深みを増し、その都市ならではの魅力を蓄え育てて来ました。そしてそれらの文化的価値は、生活の場や観光資源としての経済的価値をも長期的に高めて来たのです。我が国においても、こうしたことに十分な考慮を加え、時間的奥行きを持った魅力ある都市をこれから築かねばなりません。

【 建築家の責務、社会との相互協力 】

都市建築物の短期の建て替えによる諸問題を改善し、文化国家に相応しい都市の姿を実現するためには、今後、私たち建築家が自らの職能をさらに全うするのみならず、建築行為にかかわる全ての人々が次世代への文化的責務を共有し、市民・行政・建築主と一体となり、未来に向けて社会制度や社会的価値観を組み立て直し、具体的な対策とその実行を重ねていくべき時期に来ていると言えます。

公益社団法人 日本建築家協会(JIA)関東甲信越支部は、このように建築や都市環境を社会資産・文化資産として後世に伝えていくことが皆に課せられた責務であるとの認識に立ち、公益社団法人となった今、そのための対策の探究を率先して行い、今後の活動につなげることを宣言し、具体的な行動を立ち上げるための相互協力を皆様にも呼びかけます。